

2025年度

名古屋柳城女子大学 名古屋柳城短期大学

一般選抜I入学試験 一般選抜A入学試験

特奨生チャレンジ試験

国 語

試験開始までに下記の注意事項をよく読んでください。

試験時の注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- ② 解答用紙は、この問題冊子に挟み込まれています。
- ③ 試験開始の合図後、解答用紙に受験番号・氏名を記入しなさい。
- ④ 受験票は机上通路側にある「受験番号ラベル」の下に置きなさい。
- ⑤ 試験時間中、机上にはこの問題冊子・解答用紙、筆記用具（鉛筆又はシャープペン、消しゴム）及び時計（計時機能のみ）以外のものは置いてはいけません。
- ⑥ 問題冊子は表紙・余白・裏表紙を除いて10ページです。ページ数を確認の上、落丁や乱丁の箇所があった場合、また解答用紙も含め印刷の不鮮明な箇所があった場合は、黙って手を挙げて試験官に申し出なさい。
- ⑦ 筆記用具を落とした場合、気分が悪くなった場合やトイレに行きたくなった場合は、黙って手を挙げて試験官に申し出なさい。
- ⑧ 途中で質問などがあるときは、黙って手を挙げて試験官に申し出なさい。
- ⑨ 試験終了後、問題冊子は回収します。
- ⑩ 試験終了まで退出できません。試験が終了しても試験官の指示があるまでは席を立たないでください。

不正行為について

- ①不正行為については厳正に対処します。
- ②不正行為があった場合、その時点で受験を取りやめさせ退出させます。

一、次の設問に答えなさい(解答はすべて解答用紙に記入すること)。

設問一、次の(1)から(10)の熟語の読みをひらがなで書きなさい。また、この熟語の成り立ちを選択肢アからオより選び、記号で答えなさい。なお、同じ選択肢を複数回選んでもよい。

- (1) 新設
- (2) 逸脱
- (3) 遅刻
- (4) 寛大
- (5) 災厄
- (6) 納税
- (7) 主従
- (8) 偶発
- (9) 真偽
- (10) 官製

ア 意味が対になる漢字の組み合わせになっている。  
イ 一文字目が主語、二文字目が述語になっている。  
ウ 一文字目が二文字目を修飾している。  
エ 二文字目が一文字目の目的語、補語になっている。  
オ 意味が似た漢字の組み合わせになっている。

設問二、次の(1)から(5)の空欄にそれぞれ適当な二字のひらがなを入れ、ことわざ・慣用句を完成させなさい。

また、それぞれの意味を選択肢アからオより選び、記号で答えなさい。

- (1) 苦しい時の  頼み
- (2) 案ずるより  が易し
- (3) まかぬ  は生えぬ
- (4)  より証拠
- (5) かわいい子には  をさせよ

ア 甘やかさず、世間の大変さを体験させるほうが愛する者のためになるということ。  
イ 実際にやってみると思っていたより簡単にできるものだとということ。  
ウ 普段は関わりのない相手に、困ったときだけ頼ろうとすること。  
エ 原因がなければ結果は生じないということ。  
オ ことばであれこれ言うより裏付けとなるものを示したほうが早く解決するということ。

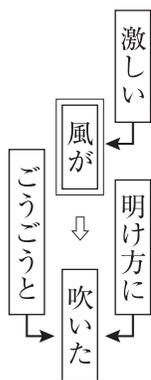
設問三、次の(1)から(5)の二つの空欄に、下のかっこ内の読みの語句になるようそれぞれ一字の漢字を入れ、四字熟語を完成させなさい。また、それぞれの意味を選択肢アからオより選び、記号で答えなさい。

- (1) 自  自  (じきゅうじそく)
- (2)  小  大 (しんしょうぼうだい)
- (3)  始   (しゅうしゅうかん)
- (4) 前   到 (ぜんじんみとう)
- (5)  意  妙 (とういそくみょう)

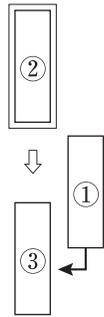
ア 意見や態度がずっと変わらないこと。  
イ その時々に合わせて素早く適した対応を取ること。  
ウ 些細な内容を誇張して言うこと。  
エ これまで誰も成功していないこと。  
オ 必要なものを他から手に入れずのみずからまかなうこと。

設問四、次の(1)から(3)の文の空欄 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ について、例にならって、それぞれ当てはまる文節を書き入れなさい。ただし、主語は白抜き矢印(⇓)の上の ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ に入れることとする。

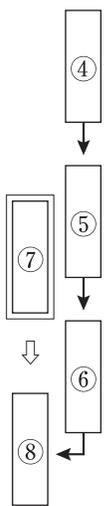
(例) 明け方に ふうふうと 激しい 風が 吹いた。



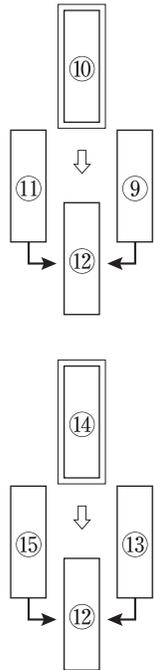
(1) 姉は スポーツが 得意です。



(2) 春に 結婚した いとこから 手紙が 届いた。



(3) おじいさんは 山へ 柴刈りに おばあさんは 川へ 洗濯に 行きました。



設問五、次の(1)から(5)の文の傍線部は格助詞である。それぞれの格助詞の働きを選択肢アからオより選び、記号で答えなさい。

- (1) 私たちがその会に出席します。
- (2) 猫と犬が並んで寝ていた。
- (3) この絵具は鋳物から作られる。
- (4) 明日の予定を教えてください。
- (5) その上着は僕のです。

ア	体言の代わりになる。
イ	連体修飾語を作る。
ウ	連用修飾語を作る。
エ	並立の関係を表す。
オ	主語を表す。

設問六、次の(1)から(5)の助数詞(数え方)に対応する名詞として適当なものを選択肢アからキより選び、記号で答えなさい。

- (1) 双
- (2) 本
- (3) 両
- (4) 丁
- (5) 房

ア	うさぎ
イ	豆腐
ウ	河川
エ	ぶどう
オ	手袋
カ	電車
キ	大砲

二、次の文章を読んで後の設問に答えなさい(解答はすべて解答用紙に記入すること)。

なんで日本に来たの？

その日も、薄いピンクとポルドー色の靴下を片足ずつ履き、ジャージの上に長いコートを着て幼稚園のお迎えに急いだ。帰りに娘たちは仲のいい友達の家を誘われた。私は色の違う靴下を履いてきたことが恥ずかしくて、一緒に車に乗った娘の友達にそう言った。「えー、大丈夫だよ、そのほうが面白いかも」と言ってくれたので安心した。「イリナのマスクが紫で可愛い」と言い続けてくれ、靴下の色が片方ずつ違っても批判されないことがうれしかった。この子は転校してきた娘たちをすぐに受け入れてくれた。いつも抱っこしたり、可愛がってもらって、娘たちをハーフとしての意識もなくスキンシップを取ったり、私を「イリナ」と名前と呼んだり、六歳になったばかりの地方の町の子とは思えない。彼女は広い世界を視線に入れている性格の持ち主だ。この女の子のお母さんとも様々な話をした。娘たちがプリンセスのドレスに着替えてファッションショーを開くのを脇で見ながら、これからの日本と教育について語り合った。

「これからはダイバーシティの時代で、子供の個性が求められる時代だから」と娘のクリエイティブな部分を評価した私に、ダジャレの大好きなお母さんは、「台場シティ？」と最近テレビでオリピックをきっかけによく聞く言葉に戸惑うフリをした。英語のdiversityと書いて渡し、多様性など今時の言葉についての議論を二人で始める。こうしている間に、しゃべりながら子育てと研究と仕事の両立に追いつかない私の洗い残したお皿を綺麗に洗ってくれた。「ものが多いから」片付けにくいだろうと、いつか整理をしてくれるという。大晦日の前の日に泊まりにきた友達もガスコンロをピカピカに磨いてくれたし、仕事の日に預けるところのない娘たちを自分の家で見してくれた友達もいる。そして、原稿を書いていて、ごみ出しを忘れてしまった時は、ごみ収集車のお兄さんがすごく忙しいのに家にピンポンしてくれて、「大丈夫ですか？ ゴミはありませんか」とわざわざ聞いてくれる。

\*

考えてみれば、日本に来てからの私の日常はこうして誰かの優しさによって救われている。移民、外国人留学生、肌の色、髪と目の色というバリアを越えて、優しくしてくれる誰かが私の周りに必ずいる。最初はもちろん単純な疑問として、「目が青いから世界が青く見えるの？」と聞かれたり、留学生同士で固まり、地元の方とどうやって接していいかわからない時もあったりした。日本語が怪しい、貧しいと言われたりした。様々な経験があるが、必ず聞かれるのは「日本に何で来たの？」優しい声、緊張した声、キツイ声、可愛い声で。その時、私は思い出す、そうか、私は見た目が違うのだ。もちろん、私に興味があるから聞かれるが、こんなに見た目がすぐバレル、この人ではないと。

どこにいても同じだ。ルーミアでも見た目、服、肌色(マイノリティもたくさんいるので)で人をカテゴライズする。大した悩みではないかもしれないが、私の場合、年より若く弱そうな女の子のイメージがある。しゃべり方がいつも緊張しているから、笑いすぎたり、甘えているように見えるのだろう。もう気にしなくなったけど、「人は見た目で判断する」と思う。どこにいても。本当の自分は「男っぽい」というか、いつも「男だったらよかったの」と思う。だから、この顔で学生の前に立つ時は最初に、「こう見えても研究者です、人を見た目で判断してはいけない」と言ってから、「文化人類学とは何か」の講義を始める。

「日本に何で来た」と聞かれ続ける。来てほしくなかったのか？ これは私が日本を褒めなければならぬという問題ではないと最近気づいたので、あまり長い答えをしなくなった。答えはシンプルに、「遠くへ行きたかったから」。誰にでもこの想いがあり、共感するのではないかと思うからだ。ルーミアの村で、寂しく一夏をかけて本をたくさん読んでいた私は『雪国』<sup>1</sup>という一冊と出会った。本の最初のイメージに惚れた。トンネルを抜けた列車の雰囲気。感覚で感じたものは、それまでの人生で一番確かだった。<sup>3</sup>ルーミア語に翻訳されていたにもかかわらず、なぜ私はそれを日本語で読んだ気がした。

そのころ言葉に悩んでいた。私の考えをうまく周りに話せない、感じていること、やりたいことも表現の壁にぶつかり、うまくいかな

いと思っていた。音楽のように、通じる電波のようなイメージで直接、身体同士でコミュニケーションできる方法がないかと考えた時、映画と出会った。映画というか、正確には「シネマ」だ。『雪国』を読んだ時「これだ」と思った。私がしゃべりたい言葉はこれだ。<sup>④</sup>何か、何千年も探していたものを見つけた気がする。自分の身体に合う言葉を。その時、すべてがつながった。映画監督になりたかった「田舎から出た普通の女の子」として受験に失敗し、秘密の言葉である日本語を思い出した。「映画」で表現できないなら、きっと新しい言葉を覚えたら身体が強くなる。日本語は、私の免疫を高めるための言語なのだ。

\*

(中略)

\*

この間、長女とお風呂に入って抱き合って、お互いの目を見つめた。彼女の髪の毛のキャラメルのような柔らかい茶色に風呂の湯気とともに魔法にかけられ、浮いている気分になる。「お人形みたいな目」と知らない間に声を出した私に、娘は、「ママはフランス人形みたい」という。六歳になったばかりの彼女がどこでフランス人形を見たのかわからない。日本語が私より上手い。お風呂から出たら、壁に飾ってある彼女が書いた絵に茶色の髪の毛の私と黒い色の髪の毛の彼女が描かれているが、ドレスは二人とも虹色だ。私はいつも娘の言葉が面白いので忘れないようにノートする。お風呂で言われたことを書く。「ママ、フランス人形みたい」。それを見た娘は「違う、ひらがなの「た」が長すぎる」と、私の書いた字を赤ペンで直した。その下になぜかピクルスのようなぶつぶつのある太いきゅうりのような物体を描く。「これ何か知っている?」「きゅうり?」と祖母がピクルスにしていた大きなきゅうりの話を始めると、娘は笑いながら「違う、オタマジャクシの池でした」。

「ママは何になりたいだっけ、そうだ、博士だ、ママは必ず博士になる」と応援する娘が寝る支度をし、「おんどく」という子供向けの寝る前の一分に読む日本の名作を出して、大きな声で読み始めた。「吾輩は猫である、名前はまだない」の次は「メロス」の<sup>②</sup>

<sup>③</sup>

話。次に「僕らはみんな生きている……ミミズだってアメンボだって……みんな友達」、最後に「みんな違って、みんないい」。次の朝、ずっとパジャマで何かを描いている。私も忙しい時はずっとパジャマで論文を書いたりするし、一日中着替えない日もあるから真似し始めたのだろう。最近ではいろんな絵を真似したらと私が提案している。昨年、一緒に見たピカソの絵も入っている画集を本棚で探す。「着替えてください」と何度も言うのに着替えない娘は大きな声で叫ぶ。「ピカソはパジャマでしか描けない」。<sup>⑤</sup>日本になぜ来たのかを見つけた気がする。それは同時に「違う角度から世界を見るため」だった。

(イリナ・グレゴレ『優しい地獄』による。)

設問一、傍線部①「彼女は広い世界を視線に入れている性格の持ち主だ。」とあるが、筆者がそう考えた理由にあたる具体的な行動を

二つ書きなさい。

設問二、傍線部②「誰かの優しさ」について、筆者は誰のどんな行動を思いながら、こう考えているのか。文中の言葉を用いて、三つ挙げなさい。

設問三、傍線部ア「こんなに見た目ですぐバレる、この人ではないと。」、イ「トンネルを抜けた列車の雰囲気。」について、それぞれの部分で使われている修辞法を選択肢AからEより選び、記号で答えなさい。

- A 反語法      B 対句法      C 詠嘆法      D 倒置法      E 体言止め

設問四、傍線部③「ルーマニア語に翻訳されていたにもかかわらず、なぜか私はそれを日本語で読んだ気がした。」について、その理由を考えて書きなさい。

設問五、傍線部④「私がしゃべりたい言葉はこれだ。」の「これ」とは何か、三字の漢字で答えなさい。

設問六、傍線部(1)「雪国」、(2)「吾輩は猫である、名前はまだない」、(3)「メロス」は文学作品のことを指し、それらのタイトルは順に『雪国』、『吾輩は猫である』、『走れメロス』である。この3つの文学作品の作者を選択肢Aからオより選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 太宰治      イ 井伏鱒二      ウ 芥川龍之介      エ 夏目漱石      オ 川端康成

設問七、傍線部⑤「日本になぜ来たのか」について、筆者は自分が日本語を学ぶことによって何が可能になると考えたのか。

文中の言葉を用いて答えなさい。文末は「が、できるようになると思ったから。」で終わる文にすること。

設問八、傍線部A「こう見えても研究者です」とあるが、この「なんで日本に来たの？」と題した文章には筆者自身を含めて、わたしたちは見た目や先入観で人や物事について判断してしまいがちであること、が記されている。たとえば、左右が異なる靴下を履いて登校してきた仲良しの友達がいた場合、あなたはその姿を見て何を思い、どんな言葉をかけるか。そこに含まれる「先入観」はどんなものか、それぞれ解答用紙に書き、その上で気づいたことを述べなさい。